

藤中 寛之

私は2012年1月の「フレスター」にて、現在の折尾駅舎が解体されることになった過程について問題点を指摘し、意見を述べた。その後、多くの方々から「折尾駅は文化財価値の調査もしてもらえないなんて、かわいそう」とか、「市の再開発は市民一人ひとりの意見が反映されていないよね。結論ありきじゃないの。納得できないよね」などの感想をもらった。

2月15日、おりお未来21協議会は北九州市に大正期の折尾駅舎の外観を新駅舎で再現し、円形ベンチなどの歴史的な部材を最大限に活用することなどを盛り込んだ要望書を提出したことが報じられた。これを受けて北橋市長は「要望内容の実現のためにJR九州と緊密な連携を図りながら検討を深めたい」と述べている。

市は、おりお未来21協議会を「地元」として折尾駅舎を含む折尾の再開発を進めているが、この協議会は住民が誰でも参加できるものではない。本来、市は住民が公平に市政情報を共有できるようにし、計画段階から住民が同等の立場で参画できるようにすべきである。

今回の折尾駅舎を含む折尾の再開発では、市は周辺工事も進んでいるので基本方針に理解してほしいとして、駅の業務を秋には仮駅舎に移し、駅舎解体などの本格工事に入ると明言している。そのため現駅舎をそのまま残すことは厳しい状況になっているが、平成28年に完成予定の新駅舎のあり方については、今年度からJRは市と協議の上で基本設計を行うとのことである。

そこで私は、現駅舎の活かし方も含めて、新しい折尾駅をどうしたいのか、誰でも参加できる公開の場で議論し、JRや市への要望をまとめることができたら良いと思う。その際、新しい折尾駅の①駅舎の外観や②改札口、③バリアフリー、④トイレ、⑤複合施設、⑥駅前広場などのあり方について、現在の折尾駅の状況やJR・市の方針、既存の提言・陳情等を整理した表や図面、工程表等を準備し、要望を文章と共に目に見える形でつくったら分かりやすいと思う。

具体的には、例えば改札口について、現在の折尾駅では鹿児島本線の南側に、西口と東口、鷹見口の3つの改札口がある。しかし、現行のJRや市が想定している新しい駅舎案では鹿児島本線の北側に改札口を一か所のみ設置する。その改札口は、下記の地図のように新駅舎の北東にあるため、現在の駅舎の西口を利用している人や南側から東口を利用している人にとって、現駅舎よりも新駅舎の改札口が遠くなる。そこで一案として、南口駅前広場に面した箇所に、新駅舎の工事中に仮改札口ができるので、この仮改札口を新駅舎完成後も改札口として存続させてほしいと要望することも考えられる、と私は思う。さあ、あなたなら新しい折尾駅をどうしたいですか？



至る光明

北↑

←西 方位 東→

南↓

鹿児島本線（至る黒崎、小倉）

出典：おりお未来21協議会・北九州市「折尾駅舎保全・活用基本方針」（平成21年6月）11頁の「5折尾駅舎保全・活用の考え方」より加筆修正

※修正箇所は、原因では北口駅前広場から南口駅前広場に抜ける鹿児島本線の架橋下に改札口があったが、その後、左記の新折尾駅舎の北東側面の北口駅前広場前に改札口を移動した。

※加筆箇所は、本文中にて一案として紹介した「南口駅前広場の新たな改札口」の位置を“↑”で記した。

※新しい駅舎を「新折尾駅舎」と加筆した。

※南口駅前広場付近案とは、折尾駅舎の建物の保存場所として提案された2案内の1つ。もう1つは「堀川沿いの歴史公園案」。

至る美吉野、大善

至る東筑、則松